

労働組合の真価が問われている2014年春闘

安倍首相による経営側に賃上げを要請するかたちで始まった異例な2014年春闘は、集中回答日に向け山場を迎えようとしています。春闘(春季生活改善闘争)とは労働組合が企業に対して統一の賃上げ要求や労働条件の改善を求めて行なう取り組みのことを言います。しかし、今年は政府が経営者に賃金を上げるように要請している中での春闘です。労働組合の真価、存在が問われています。

春闘とは？ ベアとは？

名古屋地本は、この現実の中で労働組合が主導して賃上げを勝ち取るために、職場から闘う方針を立てました。方針に基づき、「2014年JR春闘を闘い、ベアを獲得しよう！」という職場討議資料を作成し各分会で資料の読み合わせをすることにより、春闘とは何か？ベアとは何か？をもう一度しっかり考えることにしました。また、あわせて職場での問題点を要求化することも行っていくことにしました。

松阪駅QCルームで職場集会を開催！

この取り組みの中で、3月3日に名古屋運輸区分会と中津川運輸区分会は合同で職場集会を開催しました。また、同日に亀山分会は「松阪駅のQCルーム」において本部、地本からの役員を加えて8名で職場内職場集会を開催しました。昼休みの1時間を活用し弁当を食べながら、職場の問題や今春闘について議論を深めました。

自動車、電機大手ではベアを2,000～3,500円で調整中

今日現在、日産自動車労働組合は賃金改善のためのベア相当分を3,500円、年間一時金として5.6カ月分を要求し経営側はいずれも満額で応じるようです。トヨタの経営側はベア3千円を軸に調整しているもようです。電機大手10社は8日、ベアとして月額2千円の統一回答をする方向で調整しています。

職場からの闘いで満額をかちとろう！

JR東海労はJR総連方針に基づき3,500円のベア要求を掲げ、2014春闘をJR春闘として職場からしっかり闘っていきます。職場から闘いをつくり、満額の回答を何としても勝ち取っていきます。

ローソンが
ベア実施へ

12年ぶり、3000円

3/10

ローソンは「ベア」を実施する方針を決めた。同社がベア

を行うのは十二年ぶり。労働組合の要求に対する「満額回答」で、九日の交渉で労組に伝えた。

ローソンは二〇一四年二月期決算で、本業のもうけを示す営業利益が過去最高となる見込み。好業績を踏まえ、賃上げで景気回復に貢献する。同社は子育て世代を支援するため、ボーナスとは別に昨年、支給した「特別手当」を今年も実施する考えだ。

今年の春闘では、日立製作所、東芝など電機大手十社が月額二千円のベアを回答する方針。流通業界でも、食品スーパーのライフに続いてローソンが踏み切ることで、ベアの動きが広がってきた。